

言語変化の切り口

1. 変化は言語の本質

- ソシュールの2分法
 - 静的な体系 → 共時態
 - 動的な混沌 → 通時態
- 言語変化の逆説 →
- 変異 → 共時態と通時態の接点 →
- 変化 →

2. 変異は変化の種

- 変異 (変化の潜在的資源)
- 変化 (変化の履行 = 変異の採用)
- 変異から変化へ
 - 拡散 (変化の伝播)
 - A (100%)
 - A (80%) vs B (20%)
 - A (50%) vs B (50%)
 - A (20%) vs B (80%)
 - B (100%)
- A → B の変化は
- 変異の源
 - 体系的調整 → 言語内
 - 言語接触 → 言語外

3. いつ?

- 言語の起源 →
- 言語の進化 →
- 時間幅
 - 比較言語学 → 先史時代
 - 歴史時代
 - 子供基盤仮説 → 世代間
 - 話者の一生 →
 - 一瞬の流行
- スケジュール
 - 語彙拡散 → S字曲線
 - 分種の仮説 →
 - 定率仮説 → 右上がり直線
 - 青年文法学派 → 突如として
- 速度 →
- 変化の予測 →

4. どこで?

- 言語圏 →
- 言語
- 方言
 - 地域方言
 - 社会方言
- 位相
- 個人語
- 伝播
 - 方言圏論 → 波状理論
 - 飛び石理論 →
 - ネットワーク理論

5. 誰が?

- 言語が変化する?
- 話し手が言語を刷新させる →
- 聞き手が言語を刷新させる →
- 「見えざる手」 →
- 変化の主体
- 変化の採用 →
- 「弱い絆」の人 →
- 個人

6. 何?

- 成就しなかった変化
- みかけの変化 → 真の言語変化か?
- 意味
- 文法
- 語彙
- 音韻
- 書記
- どの部門の変化? →
- 語用, 言語習慣, etc.
- 証拠の問題
 - インフォーマント
 - 現存する資料 →
 - 斉一論の原則 →
 - 記述は理論に依存

7. どのように?

- 理論・領域
 - 形式主義
 - 構造主義言語学
 - 生成文法 → 普通文法 → 最適性理論
 - 機能主義
 - 認知言語学 → 使用基盤モデル
 - 文法化
 - 語用論 → 余剰性, 頻度, 費用
 - 社会言語学
 - コード
 - 言語接触
 - 地理言語学 → 波状理論
 - 言語相対論
 - 再建
 - 比較言語学 → 系統樹モデル
 - 類型論 → 含意尺度
- 体系への影響
 - 単発
 - 他の言語項にも影響
 - 大きな潮流の一端

8. なぜ?

- 問いのレベル
 - 変化の合理性
 - 一般的な変化
 - 歴史上の個別の変化
- 不変化がデフォルト? → なぜ変化する? → 変化を促進する要因
- なぜ変えない? → 変化を阻止する要因
- 目的論
 - 変化の方向性 → 偏流
 - 変化の評価
- 言語内的
 - およそ無意識的
 - 調音の簡略化 → 同化
 - 聴解の明確化 → 異化
 - 対称性の確保
 - 効率性と透明性の確保
 - 綴字発音
 - およそ意識的
 - 類推
 - 異分析
- 要因
 - 借用 → 借入
 - 干渉 → 2言語使用
 - 言語接触
 - 混合 → クレオール語
 - 基層言語仮説
 - 言語交替
 - 言語の死
 - 歴史・社会
 - 新メディアの発明
 - 語彙における指示対象の変化
 - 文明の発達と従属文の発達?
 - 言語の評価
 - 標準化 → 規範主義
 - 純粋主義
 - 監視機能
 - 言語権
 - 💡 → 複合的原因 → Samuelsの言語変化モデル

9. Weinreich et al. の切り口

- 制約
- 移行
- 埋め込み
- 評価
- 作動

10. まとめ

- ✓ 変異は変化の種
- ✓ 複合的原因
- ✓ 話し手が言語を刷新させる